

第1回寝屋川市放課後子ども総合プラン運営委員会議事録

1 日時 令和3年8月17日（火） 午前10時30分から午後12時

2 場所 議会棟4階 第Ⅰ・Ⅱ会議室

3 参加者

(1) 出席委員 （11名）

杉本委員長、龍田委員、若林委員、森委員、新井委員、北口委員
玉井委員、大村委員、永幡委員、山本委員、楠本委員

(2) 欠席委員 （5名）

安達副委員長、屋敷委員、長嶺委員、村上委員、楠本委員

(3) 事務局 （4名）

赤堀課長、三河係長、中村、高岡

4 次第

1 新委員自己紹介

2 放課後子ども総合プラン運営委員会報告書の構成(案)

3 放課後子供教室の現状報告及び意見交換

4 今後の予定について

5 会議内容

事務局：放課後子ども総合プラン報告書構成案と今までの議論の説明。

各委員：

- ・コロナ禍が地域社会の在り方について考えてみたい。

コミュニティスクールのように地域の方々が学校を支える形ではなく、子どもたちが地域に貢献する双方向性の姿、学校から学ぶという方向性から考えてみたい。コロナ禍をきっかけにバージョンアップ、つまりはレジリエンス（変化に対応する能力）に重きを置いた活動方針を考えていきたい。

- ・放課後子供教室で、校庭開放も暑さ対策とコロナ対策が両立できないため中止したので、開催回数としては減少しており、現在、放課後学習以外はできていない。昨年末に、これまで活動してきた内容をまとめて、関わってきた保護者や地域の人たちに告知や案内をしたところ、反響があり、参加する子どもが増

えたことで、関係者もやる気が出た。活動できない中でも、周知活動など、できることを行っている。

- ・ 外部講師を呼んだ英語教室等に行っていたが、地域の方を集めるイベントはできていない。留守家庭児童会とも協働して何かしたいと思うが、今は何もできず休止状態である。地域のことを考えれば地域教育協議会などの外部団体と歩み寄りたいが、各々が活動しているので、関係団体との調整が必要である。
- ・ 放課後子ども総合プランだから地域を巻き込んだ総合プランを提案し、総合という化学反応を起こしていきたい。地域の各事業で、子どもの取り合いのようになっているが、関係団体が連携して取り組んでいけば、複合ではなく総合としての活動プランが出来上がるのではないかな。
- ・ コロナ禍で、学校を休校するような事態は避けたいので、放課後子供教室では、コロナ対策を徹底した上で、夏場は熱中症対策も行い、できる範囲で交流を行っている。放課後子供教室の活動は学習教室のみで、学年は週ごとに固定化している。外部講師を呼ぶことは、現状では厳しい。
- ・ 新型コロナウイルスに対する市の対応フェーズに応じて活動しており、現在、緊急事態宣言中だが、市の公共施設が開放されているのでありがたい。先日、研修でヤングケアラーの話を聞く機会があったが、放課後子供教室の学習教室で、子ども達が 30 分だけでも宿題をやって帰るだけでも意味のある場になるかと思う。
- ・ コロナ禍の今だからできるチャンスを活かし、工夫をしていくことで、より子どもと保護者の元気につながる活動ができるのではないかな。
- ・ なぜ、この活動をしているのかを議論していきたい。放課後子供教室の活動において、地域と学校は関わっているが、そこに家庭が直接関わることがない。学校と家庭はステークホルダー（事業者が活動を営むことによって、何らかの影響等が生じる相手）的な関係なので、地域と学校と家庭の関係性について改めて考えていく機会であると思う。コロナ禍における放課後子ども教室の今後の方向性については、そのような方向性を示していきたいと考える。